

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域との交流を図る中で、今後は地域の一員としての内容をおりこんだ理念に移行していきたいと考えている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	カンファレンス時に理念を掘り下げて、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っていきたいと考えている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣近所の人達が立ち寄ったり、遊びに来たり、おすそ分けをしたりする間柄になりたいと考えている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後、小中学校との交流や青年会への夏祭りのお手伝いを依頼したい。地域の行事に参加する機会を増やしていきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町の介護事業所が集まる会合に参加し、高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合っている。また、人材育成の貢献として、実習生の受け入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、介護の質の向上に努めている。外部評価の結果は、全体カンファレンスで報告し、改善に向けて検討している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を重ねるごとに参加メンバーを増やしている。ヒヤリ・アクシデント・事故報告・ボランティア・入退居の状況については、毎回行っている。外部評価への取り組み及び夏祭りの運営等については、その時期に応じて、報告や話し合いを行い、そこでの意見を活かすようにしている。	○	参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割等を理解して、積極的に参加してもらえるよう働きかけていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業を行っていくうえで生じる運営等の課題について、市町村担当者と協議しながら行っている。協働関係を継続できるよう心がけている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。必要な人には、説明・アドバイスをしながら支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全体のカンファレンスを開き、勉強し、虐待が見過ごされることがないように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。当ホームでできること・できないこと・起こりうるリスクについては、特に重視して、説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを案ずる努力をし、利用者本位の運営を心がけている。その時々利用者の不安・意見等は、全ユニットの問題として考え、話し合いを行い、ケアに活かしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、プレスマン便りにて暮らしぶりやエピソード等を報告すると共に、家族が来訪時には、利用者の状況について話し合っている。金銭については、内容によっては、家族に用途の承認・金銭出納帳にサインをもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を置くと共に、家族会・運営推進会議等で、意見・要望を出してもらえる雰囲気作りに心がけている。そこでの意見等を全体カンファレンスで話し合い、反映させるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、個人面談を行い、意見を聞くようにしている。月に1回行っている全体カンファレンスでも意見・要望を聞き、日頃から問いかけたり、聞き出したりするようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	起床時や就寝時など、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。また、必要に応じて、柔軟に職員の配置を考えている。加えて、管理者は状況に応じた対応ができるよう通常のシフトに入れていない。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えている。異動等がやむを得ない場合は、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>週1回開催される法人内の研修には、1ユニット1名ずつ参加するようにしている。グループホーム協議会開催の研修会には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は、毎月の全体カンファレンスで発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月開催する高齢者ケア会議に出席し、交換研修や情報交換を行い、質の向上に励んでいる。交流がある他のグループホームへの見学や行事への招待にて、当ホーム以外の人材の意見や経験をケアに活かしている。</p>	<p>○ 他のグループホームとの交流を深め、他事業所の設備・運営等をさらに勉強していく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常や個人面談時に、職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。勤務時間内にも気分転換できる休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、職員の業務や悩みを把握している。また、職員の資格取得に向けた支援を行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で、生活状態を把握するよう努め、本人の思いや不安を理解しようとしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り、柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげる等の対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず、すぐ利用になった場合には、家族やそれまで関わっていた関係者に面会にきていただき、利用者に安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備・片付け・掃除など、支援する側・支援される側という意識をもたず、お互いが協働しながら、和やかな生活ができるように場面作りや声かけをし、野菜の切り方・煮物の味つけ等、いろいろな分野で教えてもらう場面が多い。	○	洗濯干し・取り込みなど、まだまだ共に協働しあえることがある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られるたび、こと細かく近況を報告すると共に、コミュニケーションを取っている。	○	面会に、たまにしか来られない家族の方に対し、来ていただけるよう声かけを再々行う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	夏祭り、家族会等の声かけを行っている。面会が少ない方へは、密に電話連絡を行っている。	○	声かけ、電話連絡では思うように双方が関わる場面が作られていない。内容を重視していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家まで一緒に帰り、家族・近所の方と顔合わせをしてもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食卓で輪を作り、皆が向かいあい、話しやすいようにしている。食事・お茶の時間には職員も入っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用契約が中止となるパターンとして、病状の悪化等で病院へ転院となることが多い。併設病院へ入院となった場合には、お見舞いに頻繁に顔を出すようにしている。	○	行事に招待したりして、遊びに来てもらえるようにしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との毎日の会話と家族からの希望・意向を聞き、把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から日常生活状況を聞き、利用者との会話・行動から把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の毎日の生活習慣を見ながら、職員全員が話し合い、利用者の自分らしさを尊重し、できることを継続できるように、また、できないことは介助し、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム内で医師のカンファレンスやスタッフ全体のカンファレンスを開き、意見やアイデアを聞き、考え、介護計画を作成している。家族に介護計画を見ていただき、意見や要望を聞くようにしている。	○	今後、介護計画を立てる際には、ケアマネージャーを中心とし、医師・看護師・介護・家族でサービス担当者会議を開催し、プランの反映に努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況を1か月ごとに評価するとともに、状態が変化した際に検討し、見直しを行っている。	○	介護計画の状況を見て、状態の変化の際に変更している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分量・排泄等を職員が一目で確認できるよう、水分チェック表・排泄チェック表に記入している。利用者の毎日の状態変化を個人記録に記入し、申し送り、情報を共有している。	○	介護計画に沿って実践されたことの中で、できることを継続してやっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに看護師を3名配置している。また、病院の併設施設でもあり、医療連携体制は充実している。利用者の受診や入院の回避、早期退院の支援医療処置を受けながら、生活の継続を行っている。	○	併設に病院があるため、重度化した場合や終末期は入院をしてもらっている。今後は、本人・家族の意向に基づき、ホーム内での看取りに取り組んでいきたいと考えている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の民生委員に運営推進会議に出席してもらい、意見交換するようにしている。ボランティアに関しては、社会福祉協議会への募集をかけ、随時受け入れを行っている。	○	今後、運営推進会議に警察・消防及び文化・教育機関等に参加してもらえるよう働きかけていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、高齢者支援センターのケアマネジャー及び地域包括支援センターの保健師のアドバイスを受けている。また、本人の希望や体調に応じて、訪問理容サービスや歯科往診を利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらい、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの顧問医のほか、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し、通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わりの中で、利用者の自尊心やプライバシーを損ねない対応を心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりの状態・表情等を見て、できる場・決める場作りをしている。水分補給のメニュー・調味料・着替えの衣類(入浴)を選んでもらうようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、体調観察しながら、本人が自由にくつろげるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴時の着替えは、声かけ・見守りながら、本人が決めるよう支援している。散髪は、月に一度理容室に来てもらい、カットをしてもらっている。	○ 散髪時のカットスタイル等は、本人が決められるよう心がけていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・片付け等、一人ひとりの得意分野を見守りながら行っている。会話を楽しみながら、職員も一緒に食事をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物のメニュー表を作り、本人が選択できるようにしている。調味料入れ等を工夫し、本人が好きな調味料を使用し、おいしく食事ができるようにしている。	○ 一人ひとりの好みで自由に冷蔵庫等も使用していただき、家庭的な雰囲気与生活できるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作り、時間的に声かけし、トイレ誘導・オムツ交換を行っている。利用者の排泄のパターンを全職員が把握し、声かけ・介助にて行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の好きな時間に入れるよう、利用者のタイミングを見て声かけし、入浴を支援し、入浴中は見守り、安全を確保している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の一人ひとりの自分らしさを尊重し、安心してゆっくり休めるよう支援している。一人になりたい時は、自室で過ごしてもらい、和室で横になりながら、テレビを見たり、自宅で過ごしているような雰囲気作りをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	経験・得意分野を引き出し、自信と役割を持ち、喜び・張りのある毎日を過ごしていただき、いきいきと生活が送れるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣いとしてお金を預かっている。中には家族の協力を得て、少額のお金を自分で持っている人もいる。買い物は、その人なりに楽しみを持つために、その人の力量に応じて、見守りや声かけを行い、支払いは本人が行う等、支援している。	○	金銭管理のできる人には、スタッフと一緒に買い物に行く時、本人にお金を渡して買い物をしていただく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者を連れて、施設周辺を散歩している。初詣やしょうぶ祭りには全員外出している。また、本人の希望により、住んでいた家までドライブすることもある。	○	散歩や買い物はできているが、時には喫茶店のような所へも行くようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族からの申し出があれば、神社への参拝や墓参り、自宅への外出をしている。また、普段一人ではいけない買い物について、職員と一緒に出かけようとしている。	○	日頃から入居者より、行ってみたい場所を聞き、希望がかなえられるようしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を書ける人は書いてもらっている。電話をかけたい時は、自由にかけてられるようにし、家族や友人、知り合いからの電話を歓迎し、話をさせていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、友人等がいつでも気軽に面会に来ていただけるよう訪問時間は定めているが、家族の都合で夜しか面会に来られない場合にも、時間にとらわれず面会ができるようにしている。	○	面会に来られた方には笑顔で迎え、自室に案内し、お茶をお持ちして、ゆっくりお話ができるよう心がけている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。車椅子利用者には、ベルトの使用はせず、座っている状態を見守るようにしている。	○	その人の人権を守ることがケアの基本であるという認識をもち、どんなことがあっても拘束を行わないという姿勢で取り組みたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に入出りができるように、日中玄関は鍵をかけていない。鍵をかけていないので、利用者が外出しようとした時は、止めるのではなく話を聞き、場合によっては、一緒に外へ出るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者の動きや状況を業務をしながら見守っている。日中は3名の職員で1時間ごとに巡視を行い、利用者の所在や様子を把握している。夜間は1名の職員で頻回に見回り、所在を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・刃物・裁縫道具など、利用者が必要な時に使用することができ、使用後は、スタッフが保管・管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急事態発生時、関係者や一部の職員だけに留めるのではなく、事故発生報告書やアクシデント・ヒヤリハットの報告書を作成し、ユニット全体の問題として捉え、リスクマネジメント部会や定期カンファレンスで検討を行う等、再発防止の話し合いを行い、改善に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回、看護師による応急手当の勉強会を実施している。夜勤時の緊急時対応について、マニュアルを整備している。救急手当や蘇生術の研修も行われている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、利用者とともに、年2回、昼と夜間想定で避難訓練を行っている。避難経路の確認・消火器の使い方の訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて、情報を常に家族に説明して、事故防止に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段の状況を職員は把握しており、異変があった時はバイタルチェックし、記録・情報を共有し、状況により医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるよう、薬手帳を作成している。服薬時は本人に手渡し、飲みにくい薬は潰す等して服用できているか確認している。飲み忘れや誤薬を防ぐため、服薬直前に開包している。本人の状態の変化経過に関して、速やかに医師・看護師に連絡して、連携を図るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や散歩・家事活動等、身体を動かす機会を設けて、自然に排便できるよう取り組んでいる。また、水分量をチェックして、便秘の予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの力に応じた歯磨きをしてもらい、職員が見守ったり、介助を行っている。自分でできない人には、ガーゼを使用して、口腔内・義歯洗浄を毎食後行っている。	○	口腔ケアについて職員は研修を受けており、肺炎を予防する技術を身につけて、口腔ケアの支援を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、食事が低下した時は、好みの物を取り入れる。職員全員が常に意識しながら、バランスのとれた食生活になるよう支援している。	○	水分は自由に摂取できるように、ホールに常時お茶を設置している。定期的に管理栄養士のアドバイスをもらい、食生活の支援をしていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防対策として、日常の掃除・外部者のうがい・手指消毒の励行を行っている。感染症対策マニュアルを作成すると共に、併設病院での感染対策委員会へ出席し、情報を共有し、感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一週間に一度、冷蔵庫の中の期限切れの点検を行い、毎日使用する食器類についても、一週間に一度、漂白剤を用いて消毒を行い、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気玄関になるように、入り口にはベンチやプランターを置いて、季節感を出している。ユニットの玄関は明るい色彩であり、入り口前には手作りの案内板を掲示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品や物品は家庭的な雰囲気にしており、室内装飾も木目調で統一し、落ち着いた雰囲気になっている。トイレの戸口は、利用者が分かるように「便所」「トイレ」と表示し、利用者が戸惑わないようにしている。台所は生活の場として、自由に出入りできるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で過ごしたい時には、自由に居室で過ごしてもらい、ホール・和室では気の合う人と楽しくおしゃべりできる雰囲気作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が大切にしている位牌や馴染みのある調度品、思い出のある写真・ひ孫の写真を置いたりして、その人らしい生活が送れるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居間の空気の入換えは、一日数回行っている。外部との温度差が極端にならないよう、エアコンで調整したりして、配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを取り付けたり、入浴しやすいようにシャワー浴・入浴ボード・滑り止めマットを設置し、背付肘付トイレの設置や車椅子対応のトイレを設置する等、入居者が安全で自立した生活が送れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できること・できないことをスタッフが把握し、できないことをさりげなく支援し、穏やかに過ごせるようにスタッフと共に行動し、役割を持ち、生きがいが持てるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに季節の花を植えたり、畑に野菜を植え、水やりや収穫を楽しめるようにしている。また、玄関先にベンチを置いて、利用者が涼んだり、日向ぼっこができるような工夫をしている。	○	外周りは坂があり、散歩に出かける際に危険である。地域のボランティアに声かけし、スタッフと利用者・ボランティアの方と楽しく散歩などできるように取り組んでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭で過ごしているような雰囲気作りを重視しており、本人がしたいことを時間にとらわれず、ゆっくりとした一日の流れを作り出せるようにしている。
自己決定を基準とし、スタッフ側の都合に利用者が合わせるというのではなく、利用者が入浴したい時間に入浴してもらったり、調味料などについても、利用者が好きな物を自由に使えるようにしている。